

E I M E I オリジナル 北辰テスト予想問題 第3回 社会

解答・解説

1 世界地理の自然環境と産業

問1

答え 午後7時

3点

経度0度のロンドンと東経135度の東京の経度差は135度です。地球は1時間に15度回転するため、時差は $135 \div 15 = 9$ 時間となります。東京はロンドンよりも東に位置しているため、時間は9時間進んでいます。したがって、ロンドンが1月1日の午前10時のとき、東京は $10 + 9 = 19$ 時、すなわち同じ日の「午後7時」となります。

問2

答え ウ

3点

地点Pは南半球のオーストラリア東部（シドニー付近）に位置します。南半球は北半球と季節が逆になるため、7月頃に気温が低くなり、1月頃に気温が高くなります。また、温帯（温暖湿潤気候）に属し、年間を通じて平均的に雨が降るため、気温の折れ線グラフが「谷型」になっており、降水量が年間を通じて安定している「ウ」が正解です。アは北半球の温暖湿潤気候、イは北半球の地中海性気候（夏に乾燥）、エは熱帯雨林気候（年中高温多雨）を示しています。

問3

答え ア

3点

略地図中のC（エジプト）や西アジアの地域では、イスラム教が広く信仰されています。イスラム教では、モスクで礼拝を行い、豚肉を食べることが禁じられています。したがってアが正解です。イはヒンドゥー教の説明です。ウの「エルサレムに向けて一日に数回礼拝を行う」は誤りで、イスラム教徒は聖地メッカに向けて礼拝を行います。エの『コーラン』はイスラム教の聖典であり、東アジアで広く普及している仏教などの説明としては誤りです。

問4

答え ②

4点

オーストラリアは世界有数の資源輸出国で、鉄鉱石や石炭、天然ガスなどの鉱産資源が輸出の中心を占める。鉄鉱石が第1位の②がオーストラリア。①は機械類や衣類など工業製品が多い中国、③は原油が約7割を占めるサウジアラビア、④は大豆など農産物と鉄鉱石が並ぶブラジル。

問5

答え 牛の飼育地域に比べて、年間降水量が少ない地域。（または、降水量が比較的少ない地域。）

4点

資料2から、牛の飼育（企業的牧畜）が行われている地域は「年間降水量が1000mm以上の湿潤な地域」であるのに対し、羊の飼育（企業的牧羊）が行われている地域は「年間降水量が250mm以上1000mm未満の半乾燥地域」であることが読み取れます。したがって、羊の飼育地域は、牛の飼育地域に比べて「降水量が少ない地域」であることがわかります。比較の基準（牛の飼育地域と比べて）を明確にして記述しましょう。

問6

答え 適地適作

3点

アメリカ合衆国では、広大な国土の中で、各地の気候や土壌などの自然環境に合わせて、最も適した特定の農産物を専門的に大規模生産しています。この農業方式を「適地適作（てきちてきさく）」と呼びます。小麦地帯やコーンベルト（トウモロコシ地帯）、綿花地帯などがその代表例です。

2 日本の自然環境と産業

問1

答え ア

3点

地点Aは新潟付近（日本海側の気候）であり、冬（1月・12月）に季節風の影響で降水量（雪）が多くなる【雨温図X】が当てはまります。地点Bは高松付近（瀬戸内の気候）であり、季節風が山地に遮られるため、年間を通じて温暖で降水量が少ない【雨温図Y】が当てはまります。したがって、正しい組み合わせはアです。

問2

答え みかん（または、温州みかん）

3点

資料3の「果物Q」は、1位が和歌山県、2位が愛媛県、3位が静岡県となっています。これらは温暖な気候と傾斜地を活かして「みかん（温州みかん）」の栽培が盛んな県です。なお、果物Pは「りんご」、果物Rは「ぶどう」です。

問3

答え 中京工業地帯

3点

資料4の「あ」は、機械工業の割合が66.2%と極めて高い特徴があります。これは、愛知県を中心に自動車産業が非常に盛んな「中京工業地帯」の特徴です。ちなみに「い」は阪神工業地帯、「う」は瀬戸内工業地域などの傾向を示しています。

問4

答え 記号：ア、距離：1km（または1.0km）

4点

【地形図の読み取り】

ア：神社の北側（上方向）には、果樹園の地図記号（○の中にドット）が広がっており、正しい記述です。

イ：2万5千分の1地形図の主曲線は10mおきです（20mおきは5万分の1）。

ウ：寺院からみて、神社は南西の方角にあります。

エ：等高線の間隔が狭い北東部（右上）の方が急傾斜です。

【距離の計算】

縮尺2万5千分の1の地図上で4cmなので、実際の距離は $4\text{cm} \times 25,000 = 100,000\text{cm} = 1,000\text{m} = 1\text{km}$ となります。

問5

答え ① 促成 理由：他の地域（千葉県など）からの出荷が少ない冬から春にかけての時期に出荷することで、高い価格で販売するため。

4点

温暖な気候を利用して、通常の栽培時期より早く収穫して出荷する栽培方法を「促成栽培」といいます。資料6をみると、千葉県の出荷が少ない冬から春（11月～5月頃）にかけて高知県の出荷割合が高くなっています。この時期は市場に出回る量が少ないため、高い価格（高値）で取引されます。この仕組みを利用して利益を上げる目的があります。

問6

答え ア

3点

ア：正しい説明です。札幌・仙台・広島・福岡は「地方中枢都市」と呼ばれ、各地方の中心的な役割を果たしています。

イ：日本の総人口が減少に転じたのは2008年頃からであり、1970年代はまだ増加していました。

ウ：かつてはドーナツ化現象がみられましたが、近年は都心の再開発などにより、都心部に人口が戻る「都心回帰現象」がみられます。

エ：過疎地域では、人口減少と高齢化により、医療機関や公共交通機関などの生活サービスを維持することが「困難」になっています。

3 古代から中世の歴史

問1

答え ア

3点

Aの57年は弥生時代にあたります。弥生時代には、大陸から青銅器や鉄器などの金属器が伝わり、米づくり（稲作）が日本各地に広まりました。イは古墳時代（3世紀後半～）、ウは飛鳥時代（6世紀）、エは奈良時代（743年）の説明であるため不適切です。

問2

答え ア

3点

C（701年・大宝律令）からD（794年・平安京遷都）の間は奈良時代にあたります。奈良時代には、仏教の力で国家を守ろうとする「鎮護国家」の思想のもと、聖武天皇によって東大寺の大仏や国分寺が造られました。これが天平文化の特徴です。イ、ウは平安時代、エは飛鳥時代（645年）の出来事です。

問3

答え ア

3点

鎌倉幕府において、将軍と御家人は土地を媒介とした主従関係で結ばれていました。将軍が御家人に領地を認めたり与えたりすることを「御恩」、御家人が将軍のために軍役などを果たすことを「奉公」と呼びます。この関係を「御恩と奉公」といいます。

問4

答え ア

3点

鎌倉～室町期には農業が発達し、二毛作や牛馬を使った耕作、肥料の利用が進み、寺社の門前や交通の要地で定期市が開かれた。よってア。イの墾田永年私財法（743年）は奈良時代、ウの株仲間は江戸時代、エの公地公民・班田収授は古代（律令制）の内容で、いずれも時期が異なる。年代の取り違えに注意する難問。

問5

答え ウ→エ→ア→イ

4点

それぞれの出来事の時期を整理します。

ウ：行基の活動は奈良時代（8世紀）です。

エ：紫式部や清少納言の活躍は平安時代中期（11世紀初頭・国風文化）です。

ア：親鸞が浄土真宗を開いたのは鎌倉時代（12世紀末～13世紀）です。

イ：足利義政による東山文化は室町時代中期（15世紀後半）です。

したがって、古い順に並べると「ウ→エ→ア→イ」となります。

問6

答え 元との戦いは防衛戦であったため、新たに獲得した領地がなく、十分な恩賞を与えることができなかったから。

4点

元寇（文永の役・弘安の役）は、攻めてきた元軍を追い返す防衛戦でした。そのため、幕府は新しく獲得した土地（領地）がなく、命がけで戦った御家人たちに対して、恩賞として与える土地がありませんでした。御家人たちは戦費の負担で生活が苦しくなっていたため、十分な恩賞が得られないことに強い不満を抱き、幕府への信頼を失っていきました。

4 近世から近代の日本の歩み

問1

答え イ

3点

江戸幕府の「四つの窓口」に関する問題です。ア：出島で貿易を認められたヨーロッパの国はオランダです。ウ：琉球王国を支配したのは薩摩藩（鹿児島県）です。エ：アイヌ民族との交易独占権を認められていたのは松前藩です。したがって、対馬藩を仲介として朝鮮通信使を迎えた「イ」が正解となります。

問2

答え レザノフ

3点

18世紀末から19世紀初めにかけて、ロシアは日本に通商を求めました。1792年に根室に来航したのがラクスマン、1804年に長崎に来航したのがレザノフです。これら北方からの接近や、イギリス船の暴行事件（フェートン号事件など）が重なり、幕府は1825年に異国船打払令を出しました。

問3

答え ア

3点

幕末の開国後の貿易において、最大の貿易相手国は「イギリス」（約8割を占める時期もありました）、最大の輸出品は「生糸」（次いで茶）、最大の輸入品は「毛織物・綿織物」などの繊維製品でした。したがって、相手国がイギリス、輸出品が生糸である「ア」が正解です。

問4

答え （例）紡績業において、外国から輸入した機械を用いた大工場が建設され、綿糸が大量生産できるようになったから。（41字）

4点

【採点基準】「紡績業」「機械」の2つの語句を使い、輸出が増えた理由（大量生産が可能になったことなど）が正しく説明されていれば完答（4点）。

明治時代の産業革命に関する超頻出テーマです。1880年代に大阪紡績会社などが設立され、蒸気機関などの「機械」を導入した「紡績業」の大工場が稼働したことで、綿糸の生産量が急増しました。その結果、1890年には国内生産量が輸入量を上回り、1897（明治30）年には輸出量が輸入量を上回るようになりました。

問5

答え ア

3点

1894年、日清戦争の直前に外務大臣の陸奥宗光がイギリスと日英通商航海条約を結び、領事裁判権の撤廃に成功した（ア）。関税自主権の完全回復は1911年に外務大臣小村寿太郎が達成したことで、イは人物・年代・内容が誤り。ウのノルマントン号事件（1886年）は改正を求める世論を高めたが、すぐには改正できなかった。エも誤り。人物と達成内容（陸奥＝領事裁判権、小村＝関税自主権）の区別が問われる難問。

問6

答え ウ

4点

大正デモクラシー期の社会運動・政治に関する問題です。1925年に制定された普通選挙法で選挙権が与えられたのは「満25歳以上のすべての『男子』」であり、女性には選挙権が認められませんでした（女性の参政権が認められたのは第二次世界大戦後の1945年です）。したがって、誤っている記述は「ウ」となります。ア、イ、エはすべて正しい記述です。

5 日本の開港と世界とのつながり

問1

答え イ

3点

オーストラリア東部（シドニーなど）の標準時子午線は東経150度であり、日本の東経135度よりも東に位置するため、日本より1時間進んでいます。また、緯度23.4度付近の回帰線（南回帰線）付近は、亜熱帯高圧帯の影響を強く受けるため、年中降水量が非常に少なく、砂漠やステップなどの乾燥帯が広がっています。

問2

答え 神戸港（神戸）

3点

日米修好通商条約で開港されたのは、函館、神奈川（横浜）、兵庫（神戸）、長崎、新潟の5港です。兵庫の開港予定地近くに整備されたのが神戸港であり、横浜港とともに明治以降の日本の主要な貿易拠点となりました。

問3

答え ア

3点

アが正しいです。デカン高原ではレグールと呼ばれる玄武岩の風化土壌が広がり、綿花栽培が盛んです。イのアッサム地方は多雨地域で茶の栽培が有名です。ウのインドのIT産業の拠点はバンガロールなどであり、キャンベラはオーストラリアの首都です。エのインドで最も信仰されている宗教はヒンドゥー教（約8割）です。

問4

答え イ

3点

明治から大正にかけて、日本は軽工業（製糸業・紡績業）を中心に近代産業が発達しました。1890年頃から綿糸の生産が急増し、大正時代の第一次世界大戦期の「大戦景気」によって、アジア向けの綿織物などの輸出が大きく伸びました。なお、1920年時点でも日本の主要輸出品は繊維製品（軽工業製品）が中心であり、重化学工業製品が過半数を占めるようになるのは昭和時代に入ってからです。また、綿花の原料はほぼ全量を輸入に依存していました。

問5

答え 北大西洋海流という暖流の上を吹いてくる偏西風が、ヨーロッパ西部（イギリスなど）に暖かい空気を運んでくるから。（または、付近を流れる暖流の影響で温められた空気が、偏西風によって陸地に運ばれてくるため。）

4点

ヨーロッパ西岸（イギリスなど）が、高緯度のわりに温暖な西岸海洋性気候となる理由を問う定番の記述問題です。大西洋を流れる暖流（北大西洋海流）の上を、西から吹く恒常風（偏西風）が通り、暖かく湿った空気を陸地に送り込むため、冬でも高緯度のわりに気温が下がりにくいです。

問6

答え 【貿易の名称】加工貿易 【関係の変化】（機械制紡績の発達により）綿糸の国内生産量が急増し、それまで多かった輸入量を上回るようになった。

4点

前半は地理の基本用語である「加工貿易」を答えます。後半は歴史（明治の産業革命）の重要知識です。1890年代、日清戦争の前後にかけて、日本国内では機械による綿糸の生産（紡績業）が急速に発達しました。その結果、1890年には綿糸の国内生産量が輸入量を上回り、さらに1897年には輸出量が輸入量を上回るようになりました。記述では「国内生産量が輸入量を上回った」という関係の変化を正確に説明する必要があります。
